



学年末考査も近づき、今年度もあとわずかになってきました。この一年間、進路の実現に向けてしっかりと学習に取り組めたでしょうか。頑張ったと胸を張れる人もいれば、なかなかやる気がおこらず一年過ぎてしまったという人もいます。ところで、皆さんは勉強が好きですか？ そもそも勉強とは何でしょう？ 学ぶとはどういうことでしょう？

わたくしはうちがびんぼうであつたので  
がつこうへいっておりません。  
だからじをぜんぜんしりませんでした。  
いましきがつきやうでんきやうして  
かなはだいたいおぼえました  
いままでおいしやへいってもうけつけて  
なまえをかいてもらっていましたがためし  
にじぶんでかいてためしてみましたが  
かんごふさんが北代さんとよんでくれたので  
大へんうれしかった。  
夕やけを見てもあまりうつくしいと  
思はなかつたけれどじをおぼえて  
ほんとうにうつくしいと思うようにな  
りました。みちをあるいておつても  
かんばんにきをつけていてならつた  
じを見つけると大へんうれしく思います  
すうじおぼえたのでスパーやもくよう  
いちへゆくのもたのしみになりました  
またりよかんへ行つてもへやのばん  
ごうをおぼえたのではじめもかかなく  
なりました。これからはがんばつて  
もつともつとばんきやうをしたいです。  
十年ながいきをしたいと思ひます。  
四十八年二月二十八日  
北代色

わたくしはうちがびんぼうであつたので  
がつこうへいっておりません。  
だからじをぜんぜんしりませんでした。  
いましきがつきやうでんきやうして  
かなはだいたいおぼえました  
いままでおいしやへいってもうけつけて  
なまえをかいてもらっていましたがためし  
にじぶんでかいてためしてみましたが  
かんごふさんが北代さんとよんでくれたので  
大へんうれしかった。  
夕やけを見てもあまりうつくしいと  
思はなかつたけれどじをおぼえて  
ほんとうにうつくしいと思うようにな  
りました。みちをあるいておつても  
かんばんにきをつけていてならつた  
じを見つけると大へんうれしく思います  
すうじおぼえたのでスパーやもくよう  
いちへゆくのもたのしみになりました  
またりよかんへ行つてもへやのばん  
ごうをおぼえたのではじめもかかなく  
なりました。これからはがんばつて  
もつともつとばんきやうをしたいです。  
十年ながいきをしたいと思ひます。  
四十八年二月二十八日  
北代色

これを書いた人は北代色さんといいます。70歳の時に生まれて初めて出した手紙です。

北代さんは明治 38 (1905) 年に高知県の土佐清水市という所で生まれました。5歳のころから生活のための草履づくりや親代わりの子守などで学校に行くことができず、字をまったく知らないまま大人になりました。ちなみに、義務教育制度は明治19 (1886) 年に既に始まっていました。

皆さんは「部落差別」という言葉を聞いたことがありますか。日本の歴史の中で形作られてきた、特定の地域に生まれ育った人に対する身分差別です。被差別部落の人々はただそこに生まれたというだけで、就職、結婚、日常生活の様々な場面で差別を受け、人としての尊厳を踏みにじられてきました。北代さんは差別による貧困で子どもの頃から働かなければならなかったのです。

「電車やバスに乗るとき行き先がわからない。」「病院や役場へ行っても自分の住所や名前を書くことができない。」など、文字の読み書きができない人には、当たり前読み書きができる私たちには想像できない苦労があると思います。憲法に保障されている健康で文化的な最低限の生活が奪われていたのです。そのため、文字を学ぶ運動が各地で展開されるようになり、被差別部落を中心に識字学級が開設されました。北代さんは60歳を過ぎてからこの識字学級に通い始め、一生懸命に字をおぼえてこの手紙を書いたのです。識字学級は現在では在日外国人が日本語を学ぶ場ともなっています。



タヤけを見てもあまりうつくしいと思はなかったけれど

じをおぼえてほんとうにうつくしいと思うようになりました。

北代さんの手紙にはこのような文があります。病院で自分が書いた名前を呼んでもらえてうれしかったというのは分かりますが、文字を覚えたことで「タヤけをうつくしいと思うようになった」とはどういうことなのでしょう。

私たちの生活の中で、言葉は重要なコミュニケーションツールであり、言葉を表すために発明された文字も重要なツール(道具)だといえます。文字がなければ人類は現在の文明を築くことはできなかったでしょう。もちろん、識字に困難を抱える人や文字をもたない文明が劣っているということではありませんが、文字がなければ今に残る素晴らしい文学作品も生まれなかったと思います。

しかし、北代さんの手紙からわかるのは、言葉・文字は単なる道具ではないということです。

この文からは、文字をおぼえたことで今までの景色が違って見え、タヤけを心からうつくしいと思えた感動が伝わってきます。そして、文字を学んだことで得た世界はすばらしいという思い、生きる喜びがこの文にはあふれています。学ぶことが人生をどれだけ豊かにするか、北代さんの手紙は学ぶことの本質を教えてくれているのではないのでしょうか。

さて、私たちは普段、学ぶことの素晴らしさを実感しているでしょうか。

確かに、日々の宿題や定期テストのための勉強などで、学ぶことの素晴らしさを感じるというのは難しいかもしれません。しかし、何かを学ぶことで自分の世界が広がるというのは、テストの点数が上がる以前に人としての喜びであるはずです。

進路に向けて全力で毎日の学習に取り組むのは言うまでもありませんが、勉強が行き詰まった時やモチベーションが下がった時などに、“もっとべんきょうしたいです”と書いた北代さんのことを思い出してみてください。そして、学びとは人生を豊かにするものなのだとしっかりと心に留めておいて欲しいと思います。「学ぶことは生きること」なのです。